



第68回 ふれ愛シネサロン

おかあさんの 被爆ピアノ

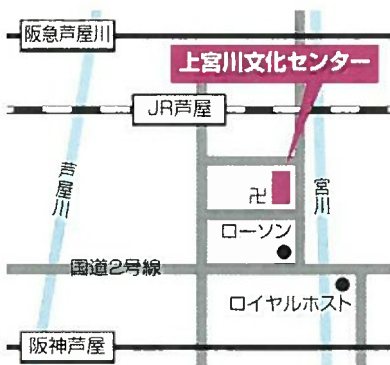
被爆してもピアノの音色は
変わらなかったのです



監督・脚本：五藤利弘

出演：佐野史郎／武藤十夢 (AKB48) ほか

©2020映画「被爆ピアノ」製作委員会



令和3年 **8月28日(土)** (2回上映・30分前開場)
①10:00~12:00 ②13:30~15:30
字幕はありません

上宮川文化センター 3階ホール

芦屋市上宮川町10番5号 [駐車場はありません]

申し込み：8月2日(月)から電話で受付

* 託児 (6か月～未就学児) / 定員各回3人

* 託児申込みは、8月20日(金)までに人権・男女共生課へ

要申込み
入場無料
各回70人

●土足厳禁のため上履き・靴袋をお持ちください ●マスクの着用をお願いします

申し込み・問い合わせ/人権・男女共生課 TEL.0797-38-2055

主催/芦屋市・芦屋市教育委員会

※この映画は原爆投下から75年目に公開された映画です。

おかあさんの被爆ピアノ



Introduction

昭和20年8月6日8時15分…

広島に投下された一発の原子爆弾。
街と共に一瞬にして消えたたくさんの命。

そうした壊滅的な状況の中で
奇跡的に焼け残ったピアノ。被爆ピアノ…
それを託された広島調律師・矢川光則さんは、
修理・調律、自ら4トトラックを運転して
全国に被爆ピアノの音色を届けて回ること。

「70年経って被爆体験者は段々いなくなっていて、
あと10年したら殆どいなくなる。けれど、被爆ピアノ
は、その音色ですっと原爆のことを伝えていくことが
出来る」と矢川さん。

被爆から75年を迎える今、
ピアノの音色で被爆の記憶を伝えていきます。



「世代を超えて伝えられるメッセージと調べ。
忘れてはいけない大切な想い。
沢山の若者たちに観てもらいたい、
心が優しくそして強くなる映画だ。」

プロモキーマー
クラーク記念国際高等学校 校長
三浦雄一郎

75年目のいま、蘇った音色が私たちに語りはじめ



昭和20年8月6日に広島で被爆したピアノを持ち主から託された調律師・矢川光則(佐野史郎)。彼自身も被爆二世。

爆心地から3キロ以内で被爆したピアノは被爆ピアノと呼ばれる。矢川は、現在数台の被爆ピアノを託され修理、調律して、それを自ら運転する4トトラックに載せて全国を回っている。

東京で生まれた江口菜々子(武藤十夢)は大学で幼児教育を学び幼稚園教師を目指しているものの将来について漠然としている。被爆ピアノの一台を母・久美子(森口瑠子)が寄贈していたことを知った菜々子は、被爆ピアノコンサートに行き、矢川と出会う。矢川を通して被爆ピアノ、広島のことを考えるようになり、祖母のことを知るうちに自身のルーツ探しをしていく。

母・久美子はどうして広島から出て行ったのか？
祖母・千恵子が菜々子に伝えたかったことは？
調律師・矢川がなぜ被爆ピアノを伝える活動をしているのか？
菜々子はルーツを辿り、被爆ピアノの活動を辿りながら次第に何かを見つけていく…。

Story



戦後75年目。被爆から75年。自分を含めて今社会を担っている大人たちの殆どが戦後生まれになっています。戦争を知らない僕らは平和を当たり前のように享受してきました。

しかし、当たり前だと思っていた平和は当たり前ではないことをここ数年の世界情勢の不安、国内で度重なり起こる災害などから強く感じるようになりました。今更ながら平和をとほっと維持しようと思いついていないと平和ではなくなってしまうのではないかと思うようになっていました。そのためには僕らが後進の若い人たちに語り継がなくてはいけないと強く思うようになりました。そのきっかけは11年前に被爆ピアノのドキュメンタリー番組をつくらせて頂いたことでした。取材をさせて頂くうちに原爆が落とされたことや平和について考えるきっかけになるような映画をつくりたいと思いました。忘れないこと、記憶し続けること、そして伝えていくこと、そうしたことを思い起こして頂くような映画になっていましたら本望です。

(監督:五藤利弘)



©2020映画「被爆ピアノ」製作委員会
2020年/日本/113分/カラー

hibakupiano.com